



TSUNAGU

令和7年7月7日
我孫子市小中一貫教育だより
第378号

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

オリジナルカリキュラム「キャリアでつなぐ白山中区カリキュラム」

我孫子第四小学校の4年生社会科の授業で「くらしを守るごみの処理と利用」のオリジナルカリキュラム授業が行われました。

まず、「満腹ですよ」と書かれたゴミの減量についてのポスターが提示され、児童はそのポスターが何を訴えているのかを考え発表しました。「ゴミが増えるとクリーンセンターで処理できなくなってしまう。」とポスターを見た児童の発言を受けて、担任から「我孫子の町はどうなってしまおう？」と問われると児童たちは口をそろえて「町がゴミだらけになっちゃう。」と答えました。我孫子市とゴミ処理の関係に気づいたところで、本時の課題をみんなで考えました。「ゴミを減らしたり、しっかりとゴミを処理するためには、どうしたらよいのだろうか」と課題が決まると、教科書からゴミ処理に関するキーワードを探し出し、話し合いを交えながらゴミ処理が自分たちの生活と深く関係していることに気づきました。

児童の活発な発言の中で「ゴミに関心を持つことが大切だと思う。」という声が上がると、そこから自分で取り組めるゴミ減量方法を考えました。児童たちからは「きちんと分別する。」「修理できるものは、直して使う。」「必要な時以外はお店で箸やスプーンをもらわない。」「食べ物は必要な分だけ買う。」などゴミを減らす取り組みについて意見が発表されました。

結びに、全員で話し合い「4Rに取り組んだり、ゴミ出しのルールを守って生活するとよい。」とみんなが納得する本時のまとめを導き出しました。授業中、ゴミ処理に関する市の仕事や、ゴミ処理に係る人たちについて学ぶ場面があり、キャリア教育を意識した授業実践だと感じました。



オリジナルカリキュラム「湖北台未来へつなぐプロジェクト」

湖北台東小学校3年生が社会科の「農家の仕事」の単元で「ベジLIFE!!」という農園に見学に行きました。“野菜を通じて人生を素晴らしいものにしませんか？”という意味をこめて、年間100種類もの野菜を育てている、地域の農家です。参加した児童たちは、代表の香取さんの説明を集中して聞いていました。気温も上がり、暑い日となりましたが、畑に移動してトウモロコシや里芋、なす、トマト、きゅうりなど、葉の形や大きさに着目しながら、たくさんの野菜を見学しました。

ラベンダーやレモンバームといった、ハーブをちぎって香りを嗅いだり、自分で収穫したピーマンをかじって味わったり、五感をフル活用しての体験学習は実りの多いものでした。昨年8月から飼育しているポニーの「バロン」(2歳)も、無農薬野菜を育てる大きな役割を担っていることも知りました。ポニーの糞を畑にまいて、畑の生物が活性化し、よい土になり、おいしい野菜が育ちます。質問タイムで、香取さんの野菜はどこで売っているのか尋ねたところ、販売はインターネットで行っていることを教えてもらいました。体験を通して地域の農業を身近に感じることでできる学習となりました。

